

梅窓院通信

遠忌特別号

施餓鬼号

No.52

2011/04/01

青山



住職挨拶

梅窓院第二十五世

中島 真成



春のお彼岸も過ぎ、今年もはや四月となりました。皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。

さて、この四月には大本山増上寺の御忌が例年になく盛大に行なわれます。浄土宗を開宗された法然上人の八百年大遠忌にあたるからです。

御忌とはかつては天皇や皇后の忌日法要を意味する言葉でしたが、大永四年(五二四)に後柏原天皇より法然上人の年忌法要にだけに使うという命が出された特別な言葉です。また法然上人は大師号という、これも天皇から授かる名前を七回もいただいています。

日本の仏教にはいくつもの宗派があり、それぞれに祖師といわれる宗派を開いたお坊さんがいますが、その中で二度以上の大師号をいただいているのは二回の隠元上人(黄檗宗)と七回の法然上人だけです(平成二十三年二月現在)。それは、仏教を庶民の身近なものにしたり、女人に往生を説いたりした宗教改革者として法然上人が日本の宗教史上でも特別なお坊さんと認められているからです。

さて、その法然上人の八百回忌の特別な年に梅窓院でも遠忌法要を行ないます。五月に日程を変更した施餓鬼会との併修として、施餓鬼会を午前十時から、遠忌法要を午後二時から行ないます。特別な法要となりますので、皆さんのお参りをお待ちしています。

また、開山忌という新しい法要を六月十一日に行ないます。開山忌とはそのお寺を創建した僧侶へのご供養と報恩感謝を表す法要で、梅窓院では南龍上人という方への法要となります。こちらも皆さんのお参りをお待ちしています。

最後に二月三日に浄土宗の教学院主催の公開講座が祖師堂で開催されたこと、浄土宗の東京教区の念仏行脚の僧侶が梅窓院にお参りされたことをお伝えいたします。

新年度を迎え、皆様の益々のご健勝、ご活躍を祈念申し上げます。

遠忌法要・大施餓鬼会法要

五月二十一日(土)

今年度より大施餓鬼会法要は五月の第三土曜日に変更になりました。また今年は浄土宗宗祖・法然上人の八百年遠忌の年にあたります。施餓鬼法要と合わせて遠忌法要も執り行います。

施餓鬼会法要・塔婆回向・別時念仏会

午前十時～ 本堂

※塔婆のお申込み状況により、時間は変更する場合があります。

お齋とぎ(お食事を頂きます)

午前十二時～ 観音堂

御説教

午後一時～ 祖師堂

講師 熊本教区 遣迎寺住職 山崎 龍道 上人

遠忌法要

午後二時～ 祖師堂

- ・長時間にわたる法要の為、途中からの参加も可能です。
- ・塔婆回向(お名前の読み上げ)は午前十時からの法要で行います。
- ・全ての法要終了後にお塔婆をお渡し致します。

遠忌によせて

今年度は浄土宗を開かれた法然上人が亡くなってから八百年目になります。

総本山、大本山、各寺院で法然上人の遺徳を偲んで大遠忌法要が営まれます。

「遠忌」というのは、五十年、百年と遠い年忌の事で、宗祖を偲び五十年ごとに営まれる法要の事です。

今日を迎えるまでの歴史を思い返すと、洋の東西を問わず、この世には実に様々な宗教家・思想家が現れましたが、その中でも浄土宗の宗祖、法然上人の特徴を挙げるとするならば、その教えと人柄に直接係わった人々があらゆる階層に及ぶことです。

有名な方では、浄土真宗を開かれた親鸞聖人も法然上人のお弟子さんでした。また、法然上人の伝記を読みますと、後白河法皇、高倉天皇、後鳥羽上皇の三人の帝、公家では九条兼実公、武家では東大寺を焼き討ちにして大罪を犯した平重衡、歌舞伎の演目で知られる熊谷陣屋の主人公、熊谷次郎直実、盗賊の天野耳四郎も法然上人の教えに帰依した内の一人です。

このように眺めていきますと、身分を越えてあらゆる階層の人々に受け入れられたことが分かります。

あくまでも、法然上人の教えは善人・悪人の垣根を越えた人間を平等に見る教えであったからこそ、金の有無・知識の有無・罪の有無・男女の別・年齢の差等を越えて大勢からの支持・帰依を得たのではないのでしょうか。

八百年の大遠忌という特別な年を迎える事が出来た我々が、どう法然上人の教えに寄り添い、受け入れることができるかを考える良いきっかけになるのではないかと思います。

(法務部)

回向のお申込み方法とお知らせ

◆施餓鬼塔婆お申込み方法

御塔婆 御回向料 …… 1本/10,000円

- ・同封のハガキにご記入の上4月30日(土)必着でお申込み下さい。
- ・施餓鬼会法要に参加される方は、出席人数も合わせてご記入下さい。(当日、出席人数分のお弁当をご用意致します。)
- ・御回向料は、同封の振込用紙で郵便局にてお支払頂くか、受付までお持ち下さい。(銀行・コンビニでのお支払いは出来ません。)

「せがき子どもひろば」のご案内

お施餓鬼の当日、梅窓院内に「子どもひろば」を設けます。保育士による絵本の朗読や、折り紙遊びなどを予定しております。是非この機会に、お子さまと一緒に御参りください。



昨年の子どもひろばの様子

※子どもひろばに関するお問い合わせは青山文化村まで。
TEL 03-3404-8588

開山忌法要

六月十一日(土)

今年から梅窓院を開かれた南龍上人の法要を行います。

開山上人へのご供養と報恩感謝の法要です。また、法要後に能楽を奉納します。

なお、法要と能楽ともに一般の方も参列、観賞できます。ともに費用はかかりませんので、ご家族・お友達お誘い合わせの上お越し下さい。

法要

午後三時～

本堂

能楽奉納

午後三時四十五分～

本堂



能楽演者のプロフィール

橋本 忠樹(はしもと ただき)

1974年京都生まれ。

東京藝術大学音楽学部邦楽学科卒。観世流シテ方橋本礪道(重要無形文化財保持者)長男。

父・礪道及び片山幽雪(日本芸術院会員、人間国宝、文化功労者)、十世・片山九郎右衛門に師事し、3歳で仕舞「老松」にて初舞台。10歳の時、能「岩船」で初シテ。大学在学時には、観世清和(観世流シテ方二十六世宗家)、故・藤波重満、野村四郎、観世恭秀、関根知孝に師事する。大学卒業と共に九世・片山九郎右衛門(現・幽雪)師の許で内弟子修行を積み2001年に独立する。2003年祇園祭宵々山の日に京都「新風館」のリキウホールにて新風館初の演能を行い、若者に能楽の魅力を伝える新たな試みに挑戦、その後もバーや野外での能公演など、若者が気軽に能に触れられる公演を行っている。

2006年のアジアクルーズでの船内公演から、世界各国で能を公演している。また、大学や日本各地での稽古活動、「小さな子供のお稽古教室」など、日本の伝統文化である「能」に幅広い世代に伝えている。

橋本聲吟社を主宰するほか、(社)日本能楽協会会員、(社)京都観世会会員など、幅広く活躍している。

梅窓院の開山上人について

梅窓院は譜代大名、老中青山忠成公の四男幸成公の菩提寺である。

幸成公の嫡兄忠俊公(次男)が三大將軍家光公の勘気を蒙り、所地・職を召し上げられたのを期に、弟幸成公が相続し、その後掛川・尼崎五万石の藩主となり、老中の時に亡くなるが、その茶毘の地、青山の下屋敷地一万三千余坪を画し、幸成公の側室(利白大姉)を大檀越・開基とし、増上寺十二世観智国師存応を開山祖として寛永二十年(一六四三)梅窓院が創建された。

当時は「新地寺院建立禁止令」の法度により、寛永九年(一六三三)以降の新地寺院の建立は禁止されていた。しかし、特例で寛永八年(一六三一)以前に建立された寺は古地として再建を許されていた。そこで、徳川家の菩提寺増上寺住職で家康公の葬儀の導師を勤め、且つ、幸成公の父、忠成と親交の深かった観智国師を開山祖として寺を建立したものとされる。

梅窓院の過去帳によると、住持の二世は戴蓮社頂譽上人冠中南龍老和尚とあるが、「実は開山也」の註書がある。つまり実際の開山は南龍上人ということになる。

南龍上人の経歴等を示す資料は少なく、「梅窓縁起」(天明八年(一七八八)十二世性山記)や「元禄浄土宗寺院由緒書(増上寺所蔵)等に散見すると、生国は下野国佐野で父親は井伊掃部頭殿の由来の津田安石衛門。剃髪は佐野法立寺の末寺、西蓮寺。修学は初め幡随意院、新田大光院、そして増上寺。梅窓院建立の土木の功があつて梅窓院の住職になったとある。

そして、寛文十年(一六七〇)、梅窓院の開基、長青院殿天譽利白大姉の逝去を見送った翌年、南龍老和尚は世寿六十七歳にて遷化されている。

行事予定

はなまつり

4月2日(土)～8日(金)
寺院棟2階 本堂
寺院棟2階本堂エントランスに花御堂を、休憩所には甘茶をご用意しております。

遠忌法要・大施餓鬼会法要

5月21日(土)
午前10時より 本堂
※詳細は中面をご覧ください。



開山忌法要・能楽奉納

6月11日(土)
午後3時～ 本堂
※詳細は中面をご覧ください。

第52回 念仏と法話の会

6月17日(金)
受付開始 12時～
別時念仏／法話／茶話会
法話:「阿彌陀様の救いを戴く」
講師 宮城教区 往生寺住職
豊嶋 瑞俊 上人



行事報告



浄土宗教学院公開講座 二月三日(木)
祖師堂にて教学院の公開講座が行われました。約六十名のご参加がありました。

梅窓院だより



かねてより進めて参りました墓地整備も、3月上旬に無事完成致しました。ご協力頂きました皆様には心より御礼申し上げます。

墓苑に関するお問い合わせ・見学予約は、下記までお電話下さい。

フリーダイヤル

☎0120-876-762



新区画イメージ図

発行 行／梅窓院
発行日／平成23年4月1日
発行人／中島 真成
編集／青山文化村
住所／〒107-0062
東京都港区南青山2-26-38
電話／03-3404-8447
FAX／03-3404-8446
ホームページ／<http://www.baisouin.or.jp/>
E-Mail／jodo@baisouin.or.jp
題字／中村康隆元浄土門主
総本山知恩院第八十六世門跡